

# *erudio* 16

国立大学法人 岩手大学 大学教育総合センター通信 2012.3

Iwate University : University Education Center

## Contents

ごあいさつ	2
運営委員会	3
入試部門	4
全学共通教育部門	5
教育改善部門	6
専門教育等連携部門	7
学生支援部門	8
キャリア支援部門	9
環境人材育成プログラム	10
いわて高等教育コンソーシアム	11
アイアシスタント	12
全学共通教育の理念と教育目標	13
委員会及部門会議名簿	14

# ごあいさつ



## 積み残したこと

やまざき けんじ  
**山崎 憲治**

全学共通教育部門・専門教育等連携部門  
(教授・専任教員)

この3月大学教育総合センターの職を去ることになりました。数多くの積み残し課題の中で、高大連携の一層の展開をあげ、今後の展望を開いていただければありがたいと思います。

日本の教育の大きな課題は、大学教育と高等学校教育の切断があります。大学入学のための受験勉強が偏差値の順位付けに特化し、キャリア形成の中での大学進学・選択に結びついていないことです。興味と関心はさておいて、点数をあげるため「覚えちまえ」という学習が、実際には効果の高い方法になっています。あれこれ悩むと、限られた時間の中で問題を解く競争では、能力は低いものとみなされがちです。高校生が放課後大学の講義を聞きに来る。高校現場において刺激的試みです。大学を知る・経験することに焦点を当てる生徒いますが、「教科書」の無い講義から学ぶことは多いと思います。大学で行われた講義で、学習の面白さと深さに驚くことも少なくありません。自分が学びたい分野が具体的に見えてくるなら、大変結構なことです。しかし、高校3年生は後期になるとピタリと大学に姿を見せなくなります。受験勉強に精力をそそぐためです。興味と関心を後ろに追いやり、偏差値向上に努めるためです。大学で学習しても偏差値は1点も上がらないと思わされているようです。

高大連携科目を選択し、出席をして、さらに試験を受け、単位認定を評価されている受講生がほとんどです。高校に戻り、高校の単位として(校長が)認定する制度も学習指導要領で認められています。しかし、高校が積極的に制度活用をしなければ認定まで至りません。将来、連携科目受講者が岩手大学に入学した場合、単位認定を生かし認めることは不可能ではありません。何よりも、高校生にとって先行投資です。少し履修単位の上限枠を広げれば、3年学部卒業の道を開くことになります。授業料を安くすることが自分の努力でできるのです。秋田大学ではすでに単位認定が行われています。文科省も単位の二重取りだから「いけない」とは言っていないのです。地域の大学として生きる道の一つです。大学から離れた地域にある高校にも連携科目の内容を配信し、夏・冬のセッションでface to face講義を実施して補完する。地域の大学としての可能性はどんどん広がると思います。



## ごあいさつ

おか もと たか や  
**岡本 崇宅**

入試部門  
(准教授・専任教員)

2月1日付で入試部門の専任教員として着任しました岡本崇宅(たかや)と申します。直前は関西の私立大学でキャリアセンターに所属し学生のキャリア支援、就職指導を行っていました。これまで27年間継続して教育業界で働いてまいりましたが、その対象は受験生(高校生、高卒生)や大学生、大学院生であり、受験指導・相談から就職指導やTA支援、入社前教育などがありました。また全国47都道府県のほとんどの県の高校や大学で教育講演や大学分析講演を行ってまいりました。今後は、これまでの経験を生かし岩手大学の求める学生像と岩手大学の教育・研究の強みを明確に各高等学校(教員、生徒、保護者)に伝え、そのことを理解し納得した多くの生徒の皆さんのが志願者・受験者になるよう努めて参りたいと思います。一方で各高等学校の岩手大学に対する要望を丁寧にお聞きすることも重要な高校訪問の業務だと考えております。そのご要望を大学に持ち帰り各先生方にお伝えもしてまいりたいと思います。

また、昨年の震災を機に高等教育機関のもつ機能が多様な場で求められていることも認識し、各地にお伺いしたいと考えております。これは、わたくし自身17年前の阪神・淡路大震災を経験し、受験生指導の中で自らも生活しながら困惑する生徒を各大学に送った体験にあります。さらに昨年3月11日の東日本大震災の折には、今の大学生が報道映像を見て17年前の幼児だった記憶(避難所生活)がフラッシュバックして身動きが取れなくなり、学生相談で落ち着かせたこともあります。(その学生は後日街頭で募金活動をしてくれました)これらのこと認識すると「震災の見えない心のケア」もまた、高校生と向き合う入試部門の重要な心がけと肝に銘じて職務に励んでまいりたいと思います。

大学教育総合センター長 高畠 義人

## ■学位授与の方針

前号で書いたものを再掲載しますと、平成25年度に予定されている認証評価では、教育の質保証の観点から3つの方針、すなわち「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」が重要な評価の対象となります。昨年度作成した全学の「学位授与の方針（案）」については、各学部の審議を経て、11月の運営委員会で一部字句訂正の上、了承しました。この3つの方針は、学部、学科、課程、コースのそれぞれのレベルで整備、公表していく必要があり、23年度末まで各学部においてそれぞれの素案を作成することになっており、24年度内にディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを策定することとしました。この2つの方針の決定に伴い、アドミッション・ポリシーとの整合性を再確認する必要もあり、各学部で24年度中の公表に向けて、3つのポリシーの整合性を確認してもらうこととなりました。

また、学位授与の方針と関連している「各学部の学科・課程・コース毎の教育目標及び習得能力の統一表記」について、各学部で作成した案を11月の運営委員会で、審議確認し、24年度の「履修の手引き」に間に合うように、各学部で最終案を作成することを決定しました。

## ■科目等履修生の集中講義の履修について

今まで科目等履修生は集中講義を受講できませんでした。集中講義となっている教職科目を科目等履修生が履修できないために、教職免許が取れないことから、委員の中から科目等履修生が集中講義を受講できるよう配慮できないかとの要望がありました。集中講義を履修できない理由として、集中講義の開講時期が事務手続き上必要な時期までに決まっていないため対象外としていることが分かり、運営委員会で検討した結果、開講日程が確定し受け入れを許可できる集中講義に限って科目等履修生の履修を可能とすることを決定しました。

## ■専任教員の採用と辞職

大学教育総合センター入試部門の専任教員に関しては、4月以降欠員となっていましたが、公募を行い、12月の運営委員会で姫路獨協大学キャリアセンター事務部長の岡本崇宅氏を准教授として最終候補者に決定しました。岡本氏については本年2月1日付けて本学に赴任し、早速入試関係の業務に従事してもらっています。一方、全学共通教育部門の山崎憲治教授から平成24年3月をもって辞職の強い希望があり、任期が残り1年ありますが3月の運営委員会で退職を了承しました。

## ■規則の改正等

震災に関連した学生支援について、検定料の免除に関する規則の制定や学生寮の寄宿料に関する規則の改正を行いました。また、平成24年度スタートとなる本学と東京農工大学との共同獣医学科に関連する多くの学内規則の見直しを審議、決定しました。

## ■その他

24年度の学年歴と全学休講について決定し、大学教育総合センターの24年度の年度計画について審議・検討しました。「学位授与の方針」等の3つのポリシーに関連して、11月には高橋浩太朗氏（文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室学務係長）に「学士課程教育の構築に向けて—この10年の政策動向—」という話題で、12月には佐藤浩章氏（愛媛大学准教授）に「3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）の開発と一貫性構築手法」という話題で学習会を開催し、理解を深めました。3つ目の学習会を3月22日に齊藤貴浩氏（大阪大学大学教育実践センター准教授）の「これからの大評価」という演題で評価室と共に開催することにしています。

震災から1年が過ぎましたが、学事日程の変更や学生支援等多くの仕事をこなしていただいた教職員の皆様に敬意を表すると共に、この場を借りてお礼申し上げます。

# ■入試部門

部門長 高畠 義人

## ■平成23年度の活動報告

6年目を迎えた入試部門の活動は、昨年度までとは異なった対応となった。平成19年度から大学教育総合センター入試部門の専任教員であった永野拓也准教授が、平成22年度末で学外に転出したため、その後任が決まるまでは入試課事務職員(再任用)1名が中心となり広報活動を行うことになった。

今年度は専任教員が不在となつたために業務を見直し、4年間本学独自の企画・運営で実施してきた「岩手大学説明会」の実施は困難と判断した。その代わり以前参加していた東北地区新聞社連合企画「東北の著名大学進学説明会」の15地域のうち、7会場に参加することとした。国公私立大学60校が参加する説明会ということで相乗効果による動員も期待されたが、本学ブース訪問者は平成22年度の本学企画説明会と変わりない数であった。

今年度の高校訪問は、主として岩手・青森・宮城・北海道の延べ77校を訪問し、他に38会場でのガイダンスと2会場での基調講演を行つた。東北各県は震災・津波被害についての情報はきちんと把握され冷静な応対であったが、北海道では特に保護者の方が不安を抱えていることを強く感じた。受験産業の志望動向調査が発表され、マスコミが福島・宮城・岩手の志願者減を大きく取り上げた時期は、広報活動をしている最中で、志願者確保に不安を抱えることもあった。ただし、一方では広報活動を通じて東北地区の志願者数に影響はなく、全体ではそれほど落ち込まないという感触もあった。

今年のセンター試験は、前年と比較し総合型5教科7科目で文系型が+10点、理系型が+18点(理科は全ての科目がプラス)と平均点が高い結果となった。志願者が強くなつたことと併せて、震災に関連した志願者の躊躇を期待した結果なのか、志願者は昨年より223名増の3,083名(一般入試前後期合計)と、3年ぶりに3,000人を越えた。

東北・北海道の志願者を見ると、北海道・秋田は変わらず、福島が20減、岩手が80減、青森120増、宮城150増、山形20増と東北地区で190名の増加となった。増えた3県の学部別志願者を見ると、特に工学部は前期55増、後期150増、農学部前期48増と、3県の志願者の中でも工学部の増加が顕著

であった。また、山形からは数は少ないが工学部志願者が前期5増(5→10)、後期10増(6→16)と倍増しているのも注目される。

平成24年度岩手大学志願者							
		平成23年度			平成24年度		
		募集人員	志願者	志願倍率	募集人員	志願者	志願倍率
岩手 大学 全體	人文社会科学部	115	240	2.1	115	243	2.1
	教育学部	136	335	2.5	136	365	2.7
	工学部	250	468	1.9	250	508	2.0
	農学部	148	441	3.0	148	497	3.4
	計	649	1,484	2.3	649	1,613	2.5
	人文社会科学部	50	189	3.8	50	253	5.1
前 期	教育学部	57	448	7.9	47	401	8.5
	工学部	62	461	7.4	62	614	9.9
	農学部	31	278	9.0	31	202	6.5
	計	200	1,376	6.9	190	1,470	7.7
合 計		849	2,860	3.4	839	3,083	3.7

## ■高校訪問・大学説明会の工夫

今年度の高校訪問途中に、思いがけず岩手県16校進路指導部会から声が掛かり、盛岡北高校での研究会に出席し、一堂に会した場での入試説明となった。この場で被災地の受験生に対するセンター試験特別措置の要望が出された。その後、学外試験場設置までの経緯は周知のとおりである。戸別訪問とは別に、このような機会を利用していくことも、今後の広報活動の一環として有効な方法と思われる。

## ■AO入試の実施

AO入試は5年目となり、3月には第一期生が卒業する。学力だけでは計れない力を持つ彼らの社会での活躍が期待される。今年度は50名の志願者に対し、募集人員通り9名の合格者を出した。また、例年どおり不來方祭に併せてオリエンテーションを開催した。合格後の入学前課題についても用意し、各課程教員の協力で、センター試験受験までの学習の取り組みについてアドバイスを行つた。



# 全学共通教育部門

部門長 河田 裕樹

## ■第二回全学共通教育シンポジウムの開催

2011年11月2日全学共通教育シンポジウムを北桐ホールで開催しました。テーマは「21世紀型市民の育成と質保証」です。初めに、座長の藤井学長から基本的問題提起がありました。21世紀型市民とはどのような姿を示すのか。批判的志向と多様な価値観を認めることに焦点を当ててみてはいかがか。高等教育の多様化のなかで目指す方向が見えてくるし、専門教育と共通教育の連携も具体的に論じることができる。本学の共通教育の旗印の一つESDもこの視点からとらえ直しが必要になっている。この提起を踏まえ、高畠理事から第一部の課題説明がありました。

岩手大学における共通教育の理念をふまえ、専門教育と共通教育の連携に向けて、論議を進める3つの課題が出されました。「外国語教育の充実に向けて」「人間性の陶冶に向けて」「自然科学の基礎的認識」であり、それらを結びつける継続して学ぶ力をどう育むかが提起されました。これに対して5つの分科会から課題への取り組み・実践報告がありました。「外国語分科会」から、外国語学習では一年集中と継続した学習が力をつけると考えすすめているが、専門教育の中での外国語学習は特に必要であることが強調されました。「思想と文化分科会」から人文系の学問を深めるには、人間の営みに関心を高めることが肝腎であることが示され、「心と表象分科会」から多様なメニューによる幅広い教養が問われており、共通教育と専門教育の連携には専門教育担当者が共通教育を担う路が有効だという方向が提示されました。「生物の世界分科会」から今日の課題に取り組むことが、学習意欲を向上させ、学習成果も上がっている実践報告がなされました。「自然と数理の分科会」から、毎時間学生に実体験を科することで学習への取り組みも深まることが強調されました。「科学技術分科会」から、専門分野で展開しているソフトパスの考え方を共通教育に取り入れること、境界領域も視野に入れた展開が、今日的な共通教育になるという問題が提示されました。

意見交換では、語学教育に関する全学組織の必要性が強調され、また、昨年のシンポジウムでも論じられた、批判的思考力の再認識が今日の大学教育を展開する上で重要であるという意見が出されました。

第二部は「持続可能な共生社会のための教育(ESD)－大震災を受けて－」というテーマです。大学教育総合センター山崎先生から、震災を契機に岩手大学の共通教育のあり方が問われていることが強調され、岩手大学のESDを新たに作っていく必要があるとの問題提起がありました。「健康・スポーツ分科会」から、震災復興に対しスポーツユニオンの立ち上げと、生涯にわたってスポーツに関わることが持続可能な健康つ

ぐりに不可欠であることが強調されました。「情報基礎分科会」から、情報共有が持続可能性につながること、震災等の非常時において不可欠なことがしめされました。「公共社会分科会」から、公共社会の教育としてサステイナビリティーに向き合うことや、持続可能な街をつくる取り組みの紹介がありました。「現代の諸問題分科会」からは、非常時の対応の違いを、トルコ、ロンドン、日本を比較して示されました。「環境分科会」から、文系の学生に科学技術をおしえることは、今日を生きる力として不可欠であることが実践をふまえて提起され、文系・理系相互交流をはかる科目的充実が示されました。

まとめの討論では、共通教育はグレートブックからサラダボールへ向かっているのではないかと座長が提起。学習過程で情報の共有とその実現に対話が不可欠であることも示されました。また、意見として、共通教育のコアカリキュラムによる共通教育の再編の検討が出され、これに対して今日の岩手大学の共通教育の方向は、学びの銀河・学生が主体的に選択した科目による星座をつくることにおかれていることが示されました。震災との関わりを持って共通教育の成長を図り、これが岩手大学のESDの可能性の追求につながるのではないかと、まとめました。

次年度も教育実践に反映する共通教育のシンポジウムを行いたいという成果を確認して閉会しました。

## ■平成24年度全学共通教育科目新規開講科目

### ■転換教育科目

「初年次自由ゼミナール」(後期)

人文社会科学部	河田 裕樹
農学部	山本 信次
大学教育総合センター	岡本 崇宅

### ■人間と社会

「ボランティアリーダーシップ」(集中)

人文社会科学部	後藤 尚人(世話役)
---------	------------

### ■人間と文化

「女性と科学の関係史」(後期)

人文社会科学部	海妻 径子
---------	-------

### ■総合科目

「総合科目特別講義(危機管理と復興)」(集中)

人文社会科学部	後藤 尚人(世話役)
---------	------------

「国際研修－エネルギーと持続可能な社会－」(集中)

国際交流センター	尾中 夏美 外
----------	---------

以上、24年度の新規開講科目ですが、ほとんどは学内外のプロジェクト科目です。今後、全学共通教育部門では各分科会とのワーキンググループを立ち上げ、教養教育における全学共通教育科目の不足分野、社会的ニーズのある学問分野等の検討を行い、新規科目の創設を目指していきます。

# ■教育改善部門

専任教員 江本 理恵

## ■FDガイドラインの策定

今年度の年度計画(年度計画16「引き続きFDプランの見直しと検証を行い、新しいFDプランに基づくFD活動を推進する。」)に基づき、部門会議にて、既存の「FDプラン」の見直しを行い、新たに「FDガイドライン」を策定しました。このガイドラインでは、FDの実施主体とその対象を明確にすることを重視しました。

これから、各学部等の意見を取り入れながら、さらに改善を加えていく予定です。

## ■学習会の開催

今年度は、下記のように学習会を実施しました。学習会の内容等についてご興味のある方は、教育改善部門までお問い合わせください。

### ■【学びのマネジメントWG学習会】ロールモデル型eポートフォリオシステムを用いたマルチキャリアパス支援

- 日 時:平成23年9月2日 14:00~16:00
- 会 場:情報メディアセンター図書館1F会議室
- 講 師:日本女子大学理学部准教授 小川賀代氏

### ■【大学教育総合センター学習会】学士課程教育の構築に向けて —この10年の政策動向—

- 日 時:11月7日(月) 16:30~18:00
- 会 場:学生センターB棟1階 多目的室
- 講 師:文部科学省高等教育局大学振興課

大学改革推進室学務係長 高橋浩太朗氏

### ■【大学教育総合センター学習会】3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の開発と一貫性構築手法

- 日 時:12月14日(水) 15:00~17:30
- 会 場:情報メディアセンター図書館1F会議室
- 講 師:愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室  
准教授 佐藤浩章氏

## ■【評価室学習会】これからの「大学評価」

- 日 時:3月22日(木) 16:00~18:00
- 会 場:情報メディアセンター図書館1F会議室
- 講 師:大阪大学大学教育実践センター准教授  
齊藤貴浩氏

※評価室と大学教育総合センターとの共催です。



## ■入学前教育の実施

大学教育総合センターでは、運営委員会の下に入学前教育実施小委員会を設置し、推薦・AO・社会人入試合格者を対象とした入学前教育に全学体制で取り組んでいます。

平成23年度の入学前教育の内容は、「読書レポートの作成」と「e-Learningを利用した英語・数学の自主学習」です(今年度より、工学部のみ数学のe-Learningを必修化)。生徒は、各学部+センターから推薦された15冊の課題図書の中から1冊の本を選び、読書レポートを作成します。生徒には、提出したレポートに対して300字程度のコメントが返されます。

今年度の読書レポート提出状況を下記の表に示します。

平成23年度 入学前教育 読書レポート提出状況一覧							入学前教育実施小委員会
推薦学部	書籍名	人社	教育	工	農	AO(人社)	合計(通)
人	スポーツは誰のためのものか	3	12	2	0	0	17
	タテ社会の人間関係	7	1	2	0	1	11
	社会とは何か	3	0	2	0	0	5
教	100年の難問はなぜ解けたのか	3	2	10	1	0	16
	思考の整理学	9	8	11	2	0	30
	新編 教えるということ	0	24	4	0	1	29
工	遠野物語へようこそ	1	9	6	2	1	19
	「量子論」を樂しむ本	0	0	16	0	0	16
	二重らせん	0	0	2	6	0	8
農	ゾウの時間ネズミの時間	3	7	15	12	1	38
	科学者という仕事	0	0	9	1	0	10
	生き方	1	6	4	0	1	12
セ	竹中式 マトリクス勉強法	3	1	8	2	0	14
	国家の品格	6	3	7	1	4	21
	ボロニーヤ紀行	3	5	2	0	0	10
合計(通)		42	78	100	27	9	256
提出者数(人)		42	76	100	27	9	254
対象者数(人)		42	77	100	28	9	256
提出率		100%	99%	100%	96%	100%	99%

部門長 西谷 泰昭

## ■基礎ゼミ副読本『大学における「学び」のはじめ』全面改訂の報告

基礎ゼミが全学で展開して5年、副読本『大学における「学び」のはじめ』も年々若干の手直しをして、新入生全員、教員全員に毎年配布している。しかし、執筆者の中には、退職・異動された方も少なくない。また、使いやすいものにするため内容の改訂も必要となった。各学部から編集委員が選ばれ、改訂作業を進めてきた。委員会は人文社会学・砂山稔、教育・遠藤匡俊、農学・小出章二、工学・松浦哲也(敬称略)、および大学教育総合センターから山崎憲治の5名で構成された。最初の会議で基礎ゼミの役割(1)全学共通教育への導入、(2)専門への導入、(3)大学生活への導入、(4)少人数クラスで学生が互いに学びあう件が確認され、この副読本の改訂の方向が了解された。『大学における「学び」のはじめ』は指定された教科書ではなく、ゼミ指導者が適宜使う副読本であること、どの学部でも使用できる・しやすい内容を実現することが了解された。第2回会議では、改訂の方向と執筆者の推举が行われた。改訂の柱は、副読本の構成に関わって作られていった。

I部「岩手大学の教育」では、「大学における学びについて」と「環境と共生する大学をつくろう」と題する項目が建てられた。岩手大学に入学した学生へのオリエンテーションとしての内容であり、二人の理事に原稿を依頼した。

II部「アカデミックスキル」には「大学の授業とは」、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「時間から学ぶ」、「フィールドから学ぶ」、「プレゼンテーションの方法」、「ディベートから得るもの」、「ワークショップの方法」とともに、各学部から「専門教育からの招待」という文章を寄せてもらった。

III部「自主学習のすすめ」では、「読書のすすめ」、「新聞を読む習慣をつくろう」、「自主的に学ぶとは」とともに、岩手大学の支援施設の「図書館」、「ミュージアム」、「地域連携推進センター」から学びの誘いの文を書いていただいた。また、新入生に渡る冊子やパンフレットをガイドし、さらには困った事態に対処できるよう「大学生活のおおよそが分かるレフランス」のページが設けられた。

IV部「ソーシャルスキルの獲得」では、「健康管理・診断・相談」、「キャリアを考える・充実した人生のために充実した

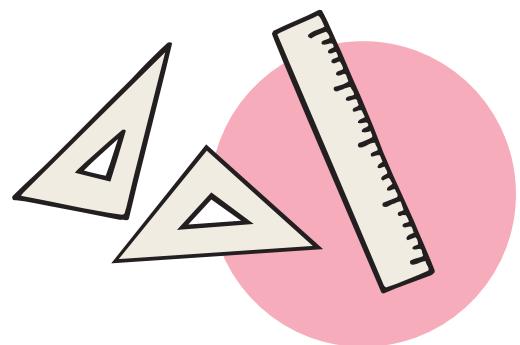
学生生活を」、「人権とハラスメント」とともに「研究室をノックしてみよう」、「相手がにっこりするメールの打ち方」、「ボランティア活動は誰の為に」などの項目が掲載されている。

これらの項目のほか、各学部から「面白ゼミ」の紹介をしてもらった。他学部のゼミがどう展開しているか、どんなことを学習しているか、自分が属すゼミを活性化する上の材料を提供してもらった。同時に、先輩からの「声」を掲載した。先輩からの声が聞こえるまでになったことは岩手大学の初年次教育にとって、前進の証であるとも考えられる。もう一つの特色は、学生にイラストや表紙のデザインを求めたことである。学生の力を積極的に活用し、基礎ゼミを豊かなものにすることは、今回改訂の課題の一つでもあった。

## ■第4回基礎ゼミナール情報交換会報告

この情報交換会は、「基礎ゼミ」の各学部での取り組み事例を紹介するとともに、転換教育の改善・課題についての意見交換と情報共有を目的に毎年開催されている。今回は、約40名の教員が参加し、平成23年12月26日に開催された。報告として、(1)基礎ゼミ副読本の改訂について(大学教育総合センター 山崎憲治)(2)基礎ゼミ取り組み紹介(人文社会学部 山本昭彦、教育学部 天木桂子、工学部 鈴木正幸、農学部 原科幸爾)が行われた後、意見交換が行われた。

意見交換では、基礎ゼミ成績評価ガイドラインの見直し、転換教育の総合的な整理とその中の基礎ゼミの位置づけ、各学部での基礎ゼミの検証など、今後の検討方向についての活発な議論が行われた。



# 学生支援部門

部門長 栗林 徹

## ■学生指導担当教職員研修会及び課外活動サークルリーダーシップセミナーの実施について

平成23年11月19日(土)に、国立岩手山青少年交流の家を会場として実施しました。

### 【学生指導担当職員研修会】

ワークショップ:「学生指導のあり方」、「学生特別支援体制」

教職員参加者数:32名

### 【課外活動サークルリーダーシップセミナー】

ディスカッション:「サークル活動の活性化と新入生の勧誘について」

サークルリーダー参加者数:95名(32団体)

### 【教職員と学生のための講演会】

東北厚生局麻薬取締部捜査課長を講師として、薬物乱用防止をテーマとする講演会を開催しました。

実は身近な問題である薬物乱用の恐ろしさを再認識する機会となりました。

## ■ロードレース大会の実施

東日本大震災の影響で実施を延期していた第54回盛岡・つなぎ間ロードレース大会を10月1日(土)に行いました。

今回からサークル対抗の部を新設しての開催となり、団体の部では農学部が、サークルの部では走友会が優勝しました。△参加者:学生89名、教職員6名

## ■学長と学生との懇談会

本年度は、次のとおり開催しました。

○第1回:平成23年6月8日(水)

『第35回ガンチョンタイム』において、テーマを「岩手大学長と語ろう」として開催。

○第2回:平成23年11月19日(土)

国立岩手山青少年交流の家で実施したサークルリーダーシップセミナーでの交流会でサークル代表者と活発な意見交換を行いました。

○第3回:平成24年3月2日(金)

各学部卒業年次及び各研究科修了年次の代表学生24名と学長、理事、副学長、監事の参加を得て、テーマを「岩手大学を選択した理由、岩手大学に入学して良かったこと」として開催しました。

たこと」として開催しました。

## ■上田地域活動推進会と学生との懇談会

平成24年1月31日(火)に初めて大学周辺の町内会の組織である上田地域活動推進会の皆さまと学生代表(学生4団体、環境マネジメント、学生寮)とが意見交換を行いました。

町内会からは、岩手大学を誇りに思っていることや社会人としてのマナーの徹底や学生の積極的な町内会活動への参加が要望され、学生にとっては地域の皆さまが日頃どのような気持ちで岩大生を見ているかが直接分かる貴重な機会となりました。

## ■寮生と学生指導担当教職員との懇談会

平成24年2月20日(月)の自啓寮を皮切りに、4寮の寮生と学生指導担当教職員とが初めて寮運営のあり方について意見交換を行いました。

快適な寮生活の実現に向けて大学側と寮生側とも目指すところは同じであり、懇談会の継続的開催の必要性を確認しました。

## ■第二課外活動共用施設の使用開始

課外活動共用施設の西側に二階建ての第二課外活動共用施設が完成しました。建物はサークル共用室4室、音楽練習室2室、倉庫2室からなり、平成23年12月からサークル活動に利用されています。

## ■東日本大震災被災学生への経済支援の実施

東日本大震災で被災した学生の皆さんへの平成23年度の経済支援として、検定料の免除、入学料・授業料の減免、岩手大学独自の奨学金の創設、募金の支給、寄宿料免除等を行いました。

入学料免除者は90名を授業料減免者は300名を超え、支援に要した経費は2億円を超える金額となりました。

## ■学生特別支援室の完成

学生特別支援室が平成24年3月に学生センターA棟2階の旧学生何でも相談室を模様替えて完成しました。

支援コーディネーターが常駐し、全ての学生にとって「学び合いの共生学舎」となるよう運営が期待されます。

部門長 安田 準

## ■文部科学省による大学生の就業力育成支援事業

事業計画に則り、5月に岩手県就職推進産学連携協議会を開催した上で、ジョブシャドウを実施した。事後報告会では、学生に新しい気付きが認められ、次年度以降にも参加を希望する者もいた。9月の『キャリアフォーラム』の開催は、学内教職員や学外から多数の参加者があり、他大学の実践的取組の紹介と参加者との意見交換で充実した成果を挙げることができた。

また、授業日に合わせてキャリア・就職相談体制を強化したため、相談する学生数が飛躍的に増加し、外部の企業との連携によるキャリア教育の具体的事業が産声を上げたばかりではあるが、平成22年度から5年計画で始まった本事業は、行政刷新会議の判定により今年度末をもって終了することとなった。

## ■後期キャリア教育実施状況

### ①キャリアを考える

自分の人生のこれまでと現在そして将来を考えるこの授業では、今年度から就業力育成支援事業との連携をはかり、したいこと、できること、すべきことの3つの問い合わせる時間や、キャリアガイダンスDVDをもとにキャリアデザインを考える時間を設けた。

### ②知財ワークショップ副題:地場産業ブランド戦略論

知財と地域の関係を探究しながら就業力、地域の活性化、地元定着を実践的に学ぶこの講座では、盛岡市商工観光部と連携し、地元の活力ある中小企業や行政との交流を行うなど能動的な学びを展開した。

## ■キャリア支援・就職支援の状況

### ①キャリア支援課のサービス向上

学生へ『岩大就職ナビ』への登録を促し、登録者数が過去最大となったことにより学生へメールでの就職支援情報を定期的に配信することが可能となった。

### ②キャリアガイダンスの充実

学生から要望の高い『面接』『ES対策』『企業研究』に重点を置き、自ら動くことをテーマとし、これまで定期的に行っている面接実践ガイダンスの他、後期には初めてカウンセラー

8名を講師としたES添削ガイダンスも2回実施し、多くの学生が添削を受けた。総じて本年度から就職活動が12月となつたことも影響し、ガイダンスへの参加者数が前年度を更に上回った。

### ③学内企業合同説明会

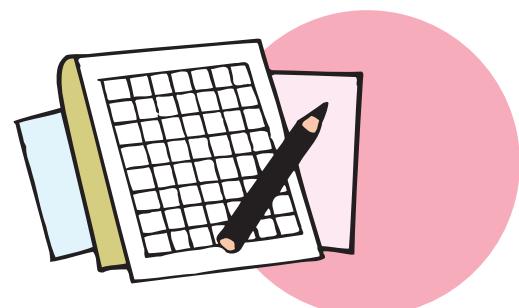
学部4年生に9月、また、3年生には12月、1月に開催した。本年度は景気の低迷に加え震災の影響等もあり、学生に早めの行動を促した結果、過去最高であった前年度を上回る参加者があった。

### ④カウンセラーの増員とハローワークと連携した就職支援の実施(キャリア相談等)

学生の就職に係るカウンセリングについて、前年度に引き続き、常勤カウンセラー1名の他、今年度から採用した専属のコーディネーターに加え外部からの委託者3名を日替わりで配置し対応した結果、学生の相談件数が前年度を大きく上回った。

### ⑤ジョブカフェ岩手大学スポット(キャリア相談・就職相談の状況)

相談件数が前年比3倍以上に増加。特長は11月以降の3年の急増、ES添削等応募書類に関する事、理系学生の増である。原因是2013採用からの就職活動期間短縮と採用環境への不安、学生の意識の向上等が考えられる。



# ■環境人材育成プログラム

環境人材育成プログラム特任助教 中島 清隆

## ■環境人材育成プログラム開発の完成

2009年度から始まった環境省の「平成21年度環境人材育成のためのプログラム開発事業」に採択された『ISO14001と産学官民連携を活用した「π字型」環境人材育成プログラム』（以下、環境人材育成プログラムと略す。）は、2011年度にプログラム開発が完了しました。

環境人材育成プログラムは、ESD（持続発展教育）の価値観に基づき、基礎的環境力（横軸）の充実に加え、個々の学部における専門分野（縦軸1）のほかに、「環境マネジメント」の実践的環境力（縦軸2）を備えた「π字型」環境人材の育成を目指すものです。

同プログラムでは次の4つの取組を進めてきました。

1. 共通教育における環境教育の充実
2. 環境マネジメント実務の実習プログラム開発
3. 学生による地域貢献の学外実習
4. 大学による「環境管理実務士」の資格認定

**〔取組1〕**環境教育科目「環境を考える」「生活と環境」の講義資料を作成しました。2009・10年度の「動物と環境」「森林と環境」「植物栽培と環境テクノロジー」「植物栽培と環境テクノロジー」とあわせ、6冊が作成されました。

**〔取組2〕**地元中小企業の経営グリーン化支援科目「環境マネジメント実践演習」が2010年度に引き続き開講されました。2010・11年度の2年間で受講生計24名が、岩手県中小企業家同友会加盟企業9社の環境報告書の作成に協力しました。

**〔取組3〕**地域貢献の学外実習として、学生4名が、盛岡市役所による環境配慮活動の現状分析を行いました。盛岡市役所の環境配慮活動について分かりやすく広報するホームページ案の作成と、保育園に導入されたペレットストーブの導入効果を検証し、普及のための方法の検討、に取り組みました。学外実習の成果は、2012年2月13日に開催された発表会で、「環境マネジメント実践演習」2011

年度受入先4社の環境報告書とともに、盛岡市役所・企業関係者の皆様に報告されました。



**〔取組4〕**2012年1月と3月に、岩手大学環境人材育成プログラム開発・実証委員会は、人文社会科学部3年生4名と工学部3年生1名に対し、岩手大学学内資格「環境管理実務士」の授与を承認しました。環境管理実務士授与者は計6名になりました。6名には、岩手大学藤井克己学長から、2012年3月15日に環境管理実務士認定証が授与されました。



2012年度以降、環境管理実務士を引き続き輩出し、岩手大学の環境人材育成を続けていくための検討が岩手大学環境人材育成プログラム開発・実証委員会で行われ、岩手大学環境マネジメント推進室を中心に進めていくことが決まりました。岩手大学は、「サステナブル・キャンパス」と「持続可能な共生社会・地域」形成に貢献できる「環境人材」の育成を引き続き進めていくことになります。

## ■コンソーシアムとしての震災復興支援の取組み

いわて高等教育コンソーシアム事業推進責任者 後藤 尚人

### ■地域復興のためのセンター的機能の整備

文部科学省の「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」(国の第3次補正予算で措置)に、震災復興WGで検討を重ね、いわてGINGA-NETと連携して応募した「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業」が採択(平成23年12月)されました。

その復興支援事業は、いわてGINGA-NETが担う「I. 学校・応急仮設住宅におけるコミュニティ形成と子ども支援事業」と、いわて高等教育コンソーシアム(いわてコンソと略記)が担う「II. 地域を担う中核的人材育成事業」から成っています。

国からの補助金は平成23年度を含め5年間支給される予定で、いわてコンソは、コンソーシアム稼働期として計画していた諸事業に加え、震災復興支援事業をこれから推進して行きます。

### ■地域を担う中核的人材育成事業

いわてコンソが担う事業は、大きく以下の4事業に区分されます。

① 沿岸復興活動拠点の形成事業

② 大学進学事業

③ 中核的人材育成事業

④ 地域貢献事業

①「沿岸復興活動拠点の形成事業」は、釜石市教育センター内に活動拠点を置き、事務機能や活動用の車両等を整備するものです。

②「大学進学事業」では、

\*被災地の高校生に高等教育に触れる機会を増やすため、久慈高校、釜石高校、大船渡高校の3校に遠隔講義システムを導入し、大学の分野別領域紹介(駅前講義)をリアルタイムで配信するほか、大学の授業等のコンテンツをオンラインで視聴可能にします。

\*また、コンソ連携大学のサークルや諸団体が被災地の学校で提供できるメニューを集めた「ボランティア活動提案書」を作成し、被災地の小中高校へ提供して、派遣ニ

ズのマッチングを行います。

③「中核的人材育成事業」では、

\*「いわて学」に震災復興の視点を取り入れて授業を組み立てます。

\*また、震災復興の観点から、新たに「ボランティアリーダーシップ」「危機管理と防災」の2科目を新設し、連携大学の教員はもとより、全国大学コンソーシアム協議会の協力を得て、全国の大学から教員ボランティアとして講師を招聘し、授業担当のみならず、いわてコンソの教員等の交流や、地域貢献活動などの充実を図ります。

\*これらの科目に加えて、「地場産業・企業論/企業研究」や国際交流科目及び連携大学の特色ある科目をもとに、総合的なコーディネート力を備えた人材育成のプログラム(地域リーダー育成プログラム)を開発します。

\*一方、学生主体の「きずなプロジェクト」活動として、震災復興支援のボランティアを募り、学習支援、応急仮設住宅でのコミュニティ支援、震災復旧支援活動を展開します。既に第1期(H23.12~H24.1)及び第2期(H24.2~3)の活動を実施しています。

\*加えて、被災地の自治体職員と連携大学の教員が震災の経験を共有し、今後の防災・減災活動やメンタルヘルス面での活動に反映できるようなワークショップを開発・実施します。

\*同様に、被災地の高校生や連携大学の学生が震災について共に学び、今後の防災・減災活動に活かすためのワークショップを開発・実施します。

④「地域貢献活動」では、

\*震災直後から連携大学で取り組んできた諸活動をもとに、被災地のニーズに合った研究チームを立ちあげ、調査研究を行います。

\*また、被災地の今後の復興計画の実施に役立てるため、研究チームの調査結果等を提言としてまとめます。

これらの事業は昨年末より実施されており、今後、連携大学のみならず、全国の大学と連携して、復興支援活動を展開します。



# ■アイアシスタント

教育改善部門 江本 理恵

今年度は、下記の通り、アイアシスタントの改修を行いました。アイアシスタントが当初の想定以上に、学生への「情報提示」手段として活用されていることが判明し、今回は特にその点を重点的に改修しました。ただし、それでも「応急措置」的な改修であることは否定できず、大学から学生への「情報提供」方法については、全学的な検討が必要だと考えられます。

アイアシスタントが本格稼働してから5年。そろそろ抜本的に作り直したいところですが....。

## ■新着情報の提示方法の改善

ポータル画面の新着情報提示方法を改善します。教員のポータル画面からはあまりわからないのですが、現在、学生のポータル画面には、大量の各種新着情報が表示されている状態になっています。そこで、各種新着情報を分類し、表示エリアも拡大して、見やすい画面を提供することにしました。さらに、下記に示すように、「お知らせ」の対象を詳細に設定できるようにし、新着情報に提示される情報そのものも減ることになります。



## ■科目別の「お知らせ」登録機能の追加

今まででは、「事務連絡」機能として、科目別の「休講」「補講」「教室変更」が申請できるようになっていましたが、加えて「お知らせ」が申請できるようになります。例えば、「レポート課題の出題」、「試験日、試験内容の周知」といった履修者に向けた連絡事項を登録できます。この「お知らせ」で登録した事項は、事務職員の確認を通して、掲示板への掲示とアイアシスタントの新着情報として学生に提示されます。

登録日	科目名	種別	登録用コード	連絡事項
月 3/4	大学の歴史と現在	休講	0033	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
木 3/10	大学の歴史と現在	休講	0039	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
木 3/14	高年次課題科目特別講義Ⅰ	休講	0079	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
木 3/16	情報教育法Ⅰ	専門	0343	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
木 3/16	情報教育法Ⅰ	幹部	4729	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

## ■学生宛通知内容の新着情報提示

教員が「学生宛通知」を出した時に、その内容が教員、対象学生ともに「新着情報」に掲示されるようになります。現在の「学生宛通知」機能では、携帯のアドレスを登録している学生を除けば、学生の大学のアドレスに通知が届くことになるので、あまり使い勝手の良いものではありませんでした。そこで、「学生宛通知」の内容を「新着情報」にも提示するようにし、アイアシスタントに(携帯電話からでも)ログインすることで、「学生宛通知」の内容を確認できようになります。

ただし、休講や補講については、同時に「事務連絡」機能を用いて、事務を通すようにしてください。



※画面はすべて開発段階のものです。実際の画面とは異なる場合があります。ご容赦ください。

# 全学共通教育の理念と教育目標

## 理

## 念

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として全学共通教育を設け、「基礎的な知識の習得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することをその理念としています。

この理念を実現するために、全学共通教育は岩手大学の全ての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。

## 教育目標

全学共通教育科目は、「転換教育科目」、「共通基礎科目」及び「教養科目」によって構成され、それぞれの教育目標を設定して全学共通教育の理念の具体化を図っています。また、この三つの区分の下に、それぞれに対応する授業科目群を設けて、より具体的な教育目標を明示しています。

さらに、教育目標の達成に当たっては、国連「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD) の10年」<sup>(注)</sup>を共通に意識することに努めています。

(注)2002年にヨハネスブルク(南アフリカ共和国)で開催された「持続可能な開発のための世界首脳会議」(ヨハネスブルク・サミット)で日本が提案して決議に盛り込まれ、同年の国連総会においても日本の提案で採択されて、2005年から開始されている世界的な教育キャンペーン。

### 1. 転換教育科目の教育目標

転換教育科目は、全学共通教育へのイントロダクション、専門教育へのイントロダクション、そして大学生活へのイントロダクションの三つを役割とする科目です。転換教育科目は、大学での新たな学びについて、少人数のクラスで学生が互いに学び合うことを目指しています。また、大学での学びを社会生活への第一歩と意識して、そこでのルールやモラルも合わせて学ぶことも目標の一つです。

### 2. 共通基礎科目的教育目標

共通基礎科目は、学生が在学中に教養科目と専門教育科目の学業を進めるうえで、また卒業後の社会生活を進めるうえで共通に必要な基本的技能やその基礎となる知識を全学生に習得させることを教育目標とする科目です。授業科目は、「外国語科目」、「健康スポーツ科目」および「情報科目」に区分されます。

### 3. 教養科目的教育目標

教養科目的教育目標は、特に上記の全学共通教育の理念における「幅広い教養」、「深い教養」及び「総合的な判断力」という3項目に基づいて、次のように設定されています。

- ①さまざまな学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことへの教育的支援。
- ②あらゆる分野の日常生活の営みの基盤になっている各種の常識・通念を根底的に深く問い合わせができるという意味での、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、自然との関係においても人間との関係においても、創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら培うことへの教育的支援。
- ③多角的な「ものの見方・考え方」や学際的な知識を習得することにより、激しく変動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的な判断力を自ら培うことへの教育的支援。

以上のような教育目標の達成をめざす教養科目は、「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」、「総合科目」、「高年次課題科目」及び「環境教育科目」に区分されます。

# 委員会及部門会議名簿

## 大学教育総合センター運営委員会委員名簿

(平成23年10月14日)

	氏 名	担当部局等
センター長	高畠 義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	河田 裕樹	人文社会科学部
入試部門長	高畠 義人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	河田 裕樹	人文社会科学部
教育改善部門長	後藤 尚人	人文社会科学部
専門教育等連携部門長	西谷 泰昭	工学部
学生支援部門長	栗林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田 準	農学部
副学部長又は評議員	丸山 仁	人文社会科学部
	遠藤 孝夫	教育学部
	藤代 博之	工学部
	古賀 潔	農学部
教務関係委員長	山本 昭彦	人文社会科学部
	遠藤 匡俊	教育学部
	千葉 則茂	工学部
	三輪 弐	農学部
学務部長	山中 和之	学務部

## 大学教育総合センターセンター会議委員名簿

(平成24年2月1日)

	氏 名	担当部局等
センター長	高畠 義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	河田 裕樹	人文社会科学部
入試部門長	高畠 義人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	河田 裕樹	人文社会科学部
教育改善部門長	後藤 尚人	人文社会科学部
専門教育等連携部門長	西谷 泰昭	工学部
学生支援部門長	栗林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田 準	農学部
センター専任教員	山崎 憲治	大学教育総合センター
	江本 理恵	大学教育総合センター
	岡本 嵩宅	大学教育総合センター
学務部長	山中 和之	学務部

# 委員会及部門会議名簿

## ■入試部門会議委員名簿

(平成24年2月1日)

	氏 名	担当部局等
部門長	高畠 義人	大学教育総合センター長
専任教員	岡本 嵩宅	大学教育総合センター
兼務教員	吉村 泰樹	人文社会科学部
	土屋 明広	教育学部
	伊藤 歩	工学部
	庄野 浩資	農学部
各学部入試委員会 (正・副委員長)	高橋 宏一	人文社会科学部
	家井 美千子	人文社会科学部
	境野 直樹	教育学部
	我妻 則明	教育学部
	平塚 貞人	工学部
	水野 雅裕	工学部
	喜多 一美	農学部
入試課長	倉島 栄一	農学部
	長代 健児	学務部

## ■全学共通教育部門会議委員名簿

(平成23年4月20日)

	氏 名	担当部局等
部門長	河田 裕樹	人文社会科学部
専任教員	山崎 憲治	大学教育総合センター
兼務教員	斎藤 博次	外国語分科会
	鎌田 安久	健康・スポーツ分科会
	鈴木 正幸	情報基礎分科会
	中村 安宏	思想と文化分科会
	織田 信男	心と表象分科会
	高橋 宏一	公共社会分科会
	三井 隆弘	現代の諸問題分科会
	西山 賢一	生物の世界分科会
	八木 一正	自然と数理の世界分科会
	柳岡 英樹	科学技術分科会
各学部教務委員会	河合 成直	環境分科会
	横山 英信	人文社会科学部
	菊地 洋一	教育学部
	鈴木 正幸	工学部
学務課長	三浦 靖	農学部
	浅沼 良庸	学務部

## ■教育改善部門会議委員名簿

(平成23年4月20日)

	氏 名	担当部局等
部門長	後藤 尚人	人文社会科学部
全学共通教育部門長	河田 裕樹	人文社会科学部
専任教員	江本 理恵	大学教育総合センター
兼務教員 (学部選出委員)	砂山 稔	人文社会科学部
	五味 壮平	人文社会科学部
	岩木 信喜	教育学部
	宮川 洋一	教育学部
	松浦 哲也	工学部
	吉澤 正人	工学部
	横井 修司	農学部
	塚本 知玄	農学部
学務課長	浅沼 良庸	学務部

## ■専門教育等連携部門会議委員名簿

(平成23年9月7日)

	氏 名	担当部局等
部門長	西谷 泰昭	工学部
専任教員	山崎 憲治	大学教育総合センター
兼務教員 (各学部教務委員会選出教員)	三浦 康秀	人文社会科学部
	犬塚 博彦	教育学部
	藤代 博之	工学部
	板垣 匡	農学部
学務課長	浅沼 良庸	学務部

## ■学生支援部門会議委員名簿

(平成23年4月20日)

	氏 名	担当部局等
部門長	栗林 徹	教育学部
兼務教員 (各学部学生委員会選出教員)	白倉 孝行	人文社会科学部
	上濱 龍也	教育学部
	土岐 規仁	工学部
	伊藤 幸男	農学部
学部選出教員	菊池 孝美	人文社会科学部
	菊地 悟	教育学部
	一ノ瀬 充行	工学部
	溝田 智俊	農学部
学生支援課長	佐藤 祐一	学務部

## ■キャリア支援部門会議委員名簿

(平成23年10月1日)

	氏 名	担当部局等
部門長	安田 準	農学部
兼務教員 (各学部就職委員会選出教員)	宮本 ともみ	人文社会科学部
	大河原 清	教育学部
	西谷 泰昭	工学部
	古賀 潔	農学部
キャリア支援課長	大内 正	学務部



## 編集後記



今年の冬は寒かったです。内陸だけではなく、沿岸地域も冷え込んだようで、仮設住宅にお住まいの方々の体調が気遣われます。

もうじき、震災2年目の新学期がやってきます。大学の最も大きな使命は人材を育成することです。社会で長く活躍できる人材を育成できるよう、教育にこそ、力をいれていくたいと思います。

工房うさぎごや

# erudio 16

2012年3月25日発行



国立大学法人  
岩手大学 大学教育総合センター  
Iwate University : University Education Center  
〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-34

- 入試部門 tel.019-621-6926
- 全学共通教育部門 tel.019-621-6925
- 教育改善部門 tel.019-621-6924
- 専門教育等連携部門 tel.019-621-6925
- 学生支援部門(学生支援課) tel.019-621-6058
- キャリア支援部門(キャリア支援課) tel.019-621-6059

■部門共通 fax.019-621-6928

電子メール uec@iuate-u.ac.jp

Webサイト <http://uec.iuate-u.ac.jp/>

